

血液培養陰性サブカルチャーにより検出し得た *Haemophilus parainfluenzae* の 1 症例

◎内田 達弥¹⁾、森谷 祐司¹⁾
杉田玄白記念 公立小浜病院¹⁾

【はじめに】当院では血液培養自動機器陰性判定時にチョコレート寒天培地にてサブカルチャーを実施している。今回、自動機器では陰性と判定されたが陰性サブカルチャーにより *Haemophilus parainfluenzae* の発育を認め、感染性心内膜炎 (IE) が疑われた症例を経験したので報告する。

【症例】60 代、男性 既往歴：糖尿病、虫垂炎術後
現病歴：悪寒、38 度台の発熱を認め当院救急外来を受診。
精査目的で血液検査、CT、血液培養が施行されたが熱源不明、全身状態良好であり翌日内科対診となった。内科対診時、体温 37 度台であり CFPN 300mg/day を 7 日間処方され経過観察となった。その後、血液培養 2 セット 4 本中 3 本に *H. parainfluenzae* が検出され抗菌薬終了後から再度 38 度台の発熱があることから IE を疑い CTRX 2g/day にて入院加療が開始された。入院 2 日目には解熱、9 日目に採取した血液培養で陰性が確認され 41 日目に退院となった。
微生物学的検査：血液培養は BacT/ALERT 3D (ビオメリュー) にて 6 日間の培養を行ったが陰性と判定、陰性サブカルチャーにてグラム陰性桿菌の発育を認めた。再度血液培

養ボトルを羊血液寒天培地 (島津ダイアグノスティクス)、ドリガルスキー改良培地 (栄研化学)、チョコレート寒天培地 (極東製薬) へ塗布し培養を行った所、4 本中 3 本でチョコレート寒天培地のみに発育を認め、オキシダーゼ陽性、カタラーゼ陽性から *Haemophilus spp.* を疑い、V 因子要求性、ウマ血液寒天培地非溶血性、ID テスト・HN20 ラピッド「ニッスイ」 (島津ダイアグノスティクス) の性状から *H. parainfluenzae* と同定した。

【考察】*H. parainfluenzae* は HACEK に属する IE の起因菌として重要な菌種の 1 つである。しかしながら栄養要求性が高く血液培養ボトルでの検出は困難なこともある。今回発育が認められたボトルはいずれも自動機器で陰性と判定され、陰性サブカルチャーにより検出された。血液培養における HACEK の分離は比較的まれではあるが本症例のように自動機器では陽転化しない可能性も踏まえ、陰性サブカルチャーによる確認は重要であると考ええる。

連絡先：0770-52-0990 (内線 3250)